



『日本と中国の就職活動の違い』

シェイ シュウジャオ
謝 雪嬌〔中国北京市 出身〕

皆さん、おはようございます。謝雪嬌と申し上げます。中国北京市出身、数年前東京都に移住。

今日は、日本と中国の就職活動の違いについて、話したいと思います。

1. 就活の制度と時期

日本では「就活」という一連の活動が企業文化として確立しており、大学 3～4 年生頃から本格化します。履歴書提出、筆記試験、面接、グループディスカッションなどを経て、内定を得るまでが一般的な流れです。企業研究・自己 PR・志望動機を練り、複数社に応募するのが普通です。内定出しは春季採用が中心で、内定を出してから年内に入社するケースが多いです。

中国では「就職活動」という呼称は日本ほど統一されておらず、企業ごとに選考スケジュールが異なるケースが多いです。一般的には「校園招聘(キャンパスリクルート)」と呼ばれるイベントが大規模に行われ、大学のキャリアセンターや企業の採用担当が合同で説明会・面接を実施します。時期は大学の学年や地域によって差がありますが、グローバル志向の大手企業は春先～夏にかけて集中的に選考を行う傾向があります。内定後のフォローも日本と似ていますが、企業によっては新卒一括採用の形態が強い一方で、職種別の採用や「ポテンシャル採用」など柔軟な採用もあります。

2. 採用プロセスの特徴

日本では筆記試験、面接(複数回)、最終面接といった段階が典型です。過去の履歴よりも「企業文化適合性」や「長期的な成長ポテンシャル」を重視する傾向が強く、自己 PR・志望動機を企業ごとに細かく作り込む作業が重要です。合同説明会やインターンシップを通じて、企業側に自分を売り込む場面が多く設けられます。

中国の採用プロセスは企業により大きく異なりますが、共通して「エントリー→書類審査→面接→内定」という流れが基本です。エントリーはオンライン申請やキャンパスリクルートの現場説明、オンラインの適性検査などが含まれます。日本より選考の回転が速い場合もあり、数週間で結果が出ることもあれば、複数回の面接を経るケースもあります。大手はグローバル人材を重視し、英語力や外国語スキル、実務経験の有無を問う場面があります。集団討議は日本より少ないと思います。

3. 言語とコミュニケーション

日本の就活では、日本語での一貫したエントリー面接が基本です。自分の経験や成長ストーリーを企業の価値観に合わせて語る力が重要です。一般的に「謙虚さ」と「協調性」が評価されます。企業説明会やインターンシップを通じて企業風土を肌で感じる機会が多いと思います。中国の就活では、学歴・企業名・実績に加え英語や他言語の能力が評価される場面が増えます。特に国際部門や外資系企業では英語での面接が行われることが多く、英語力が重要だと思います。

以上、ご清聴ありがとうございました。





『日本で見つけた強さ』

ファム レ ジェウ アイ〔ベトナム 出身〕

2023 年に日本に来ました。最初は何もかも新しく、とても面白かったです。もともと文化に興味があるので、いろいろな場所を観察したり、面白そうなイベントに参加したりしました。しかし、だんだん難しいことも増えてきました。

日本に来た初日、市役所で手続きをしたとき、日本語が全然分からなくて、もう少しで気を失いそうになりました。

スーパーで買い物をするのも大変でした。支払いのとき、店員さんに何か聞かれると緊張して、口が動かなくなりました。簡単な買い物もできなくて、自分に失望し、ある日泣き出してしまいました。でも、その経験のおかげで「もっと日本語を勉強しよう」という気持ちが強くなりました。

日本人に話しかけられることもよくありました。嬉しくて話そうとしましたが、全身が熱くなって、背中に汗をかいて、言葉がうまく出ませんでした。

ある日、梅の花を見ているときにおばあさんに声をかけられました。たくさん話してくれましたが、意味が分からず、私は笑って「はい」と答えるだけでした。最後におばあさんが「いくつ？」と聞いたとき、「いくつって何だったかな？ 聞いたことがあるけど思い出せない！」と焦りました。それに気づいたおばあさんが英語に変えてくださったので、ほっとして答えることができました。少し緊張しましたが、毎回そんな出会いがとても嬉しくて、日中はずっとニコニコしていました。

生活に慣れてから、アルバイトを探し始めました。夫の応援で面接にも行きましたが、結果は全部不合格でした。悲しくて、自信がだんだんなくなっていきました。一番つらい時期だったと思います。でも、毎朝サッカーを練習する子どもや、コツコツ運動するおじいさん、図書館で勉強するお年寄りを見て、日本人の我慢強さに感動しました。それを見て、私も「もう一度頑張ろう」と決心しました。

少しずつ自分を受け入れ、失敗から学びながら前に進みました。心を整理したあと、いろいろな機会が訪れるようになりました。会話教室に通うようになって、生活がにぎやかになり、たくさんの良いことを身につけ、先生方のあたたかい心を感じました。

同じように悩んでいる友達にも出会い、「日本語の勉強の道は一人じゃない」と感じました。今では、日本語の勉強も日本の生活も、もっと面白く感じています。

この 2 年間を振り返ると、毎日少しずつ成長し、失敗から立ち上がった自分に満足しています。日本は「堅持」という大切な言葉、強い気持ちを持続けることを教えてくれた国だと思います。そして、出会ったすべての人に心から感謝しています。

最後に、日本語教室の先生方、本当にありがとうございました。





『日本でくらす外国人のお母さんとして』

ニン プイン ピュー [ミャンマー 出身]

みなさん、こんにちは。私はミャンマーから来ました。名前はニン プイン ピューと言います。

二人の息子を育てている母です。夫と一緒に江戸川に住んでいます。夫は日本で 20 年以上暮らしていますが私は結婚してから日本にきました。そのため、日本語はまだあまり上手ではありません。今、少しずつ勉強しているところです。

今日は私の経験から思ったことを話したいと思います。私の息子は二人とも日本で生まれました。上の子は 4 歳、下の子は 2 歳です。日本の子育て制度のおかげで、私は安心して子どもを育てることができています。

例えば、赤ちゃんが生まれると区役所や保健センターから定期的に健康診断のお知らせがとどきます。診断は無料で、専門の医師や保健師さんが子どもの成長を見てくれます。「赤ちゃんの体重が増えていますよ、お母さんも赤ちゃんも健康です」と言われて、私は心から安心します。

また、保育園では保育士さんが毎日子どもを大切に见守ってくれます。「たくさんあそびましたよ、今日も元気、にこにこしています」と言うレンラクノートの日本語が読めたとき、とてもうれしく思いました。

節分などの日本の行事も保育園でしてくれます。日本での伝統文化を知ることができて、すごくいい経験だと思います。

でも日本での子育ては楽しいことだけではありません。上の子が 2 歳になる少し前、高い熱が続きました。夫は海外にいて、私は一人に対応しなければなりませんでした。お腹には妊娠 8 か月の赤ちゃんがいて、とても不安でした。病院に行くと、先生は「川崎病の疑いがあります」と言いました。すぐに大きな病院を紹介され、そこで「ただちに入院が必要です」と言われました。そのとき私は、とてもこわかったです。言葉もよく分からない。病気のことも分からない。小さな子どもとお腹の赤ちゃん。子どもと二人になったとき、我慢していた涙が出ました。

みなさんは自分の子どもが突然「入院です」と言われたらどうしますか？大切な子どもを前にして、言葉がわからなかったらどんな気持ちになるでしょうか？

でも、そのとき病院の先生や看護師さんは子どもを丁寧に診察してくれた後、これからの治療のことをスマートフォンの翻訳も使って、私にわかるように教えてくれました。その言葉と優しいスマイルで、私は「できる」と自信がつきました。子どもは入院して 5 日目から少しずつ元気になり、1 週間後には退院できました。

子どもが「ママ、ママ」とにこにこした時、私は大きなよろこびを感じました。子どもの元気な姿が人生で一番の幸せです。

この経験から私は、心から思いました。日本の医療制度、子育ての制度、そしてそこで働く人たちは、外国人の親である私にとって大きな支えです。先生や看護師さん、保健師さん、保育士さん、みなさんのおかげで安心して子どもを育てることができます。本当にありがとうございます。

最後に伝えたいです。日本の制度や人々の優しさは外国の親にとって希望です。みなさん、どうかこれからも子どもたちとお母さんたちを見守ってください。

私はこれからも文化の違いや言葉の壁にぶつかることもあると思います。

簡単なことではありませんが、感謝の心を忘れず、日本での子育てをがんばっていきたいと思います。

ご清聴ありがとうございました。





『織田信長とナポレオン』

張 軼君〔中国湖南省 出身〕

皆さん、こんにちは。

以前の日本語学校のクラスでは、「日本人が好きなもの」という壮大なスピーチテーマが設定されました。それに興味を持っていた私は、資料集めが得意なので、図書館に足を運び、この問題の答えを探し始めました。調べていく中で、約 20 年前に NHK が行った「日本人は何が好きか」という社会調査の結果を見つけました。調査結果には、予想通りの内容が多く含まれていました。

例えば、日本人が最も好きな食べ物は寿司だということです。しかし、その中で私が意外だと感じた結果がありました。2000 人以上の日本人を対象に「最も好きな歴史的人物は誰ですか？」と尋ねたところ、最も多く挙げられた人物は織田信長であり、世界史で最も好きな人物はナポレオンでした。

織田信長とナポレオン。この二人の人物は、私のような中国人の視点から見ると、改革に対する強い意志、伝統を打破する力、そして独自の道を歩んだという点で共通しています。これは、私が感じていた日本人の一般的な姿勢とはかなり異なっていました。

実際、私の経験に照らし合わせて言うと、独立独歩を標榜し、常に他の人と違うことを追求する日本人はあまり見かけません。多くの日本人は、実際にはかなり規則正しく、周囲の人々と調和を保つことを好み、社会で目立たないようにする傾向があります。

織田信長のような人物が心の中で好きで、信長やナポレオンといった英雄を尊敬している一方で、現実の生活では非常に調和を重んじ、空気を読もうとする。こうした不思議なギャップは、私にとって非常に興味深く感じます。人間は現実で足りないものを心の中で強く求めることがあるのかもしれませんが。

織田信長のような人物が好きだという日本人が多いことから、いくつかのことが読み取れます。保守的で内向的、安定を求めることが日本人の本質ではないことがわかります。むしろ、革新や改革を重んじ、偉大な業績を築くことを望む人々が多いと言えます。短くとも華やかで充実した人生を送りたいという願いが、日本人の内面に存在するのです。

「人間五十年、下天の内を較ぶれば、夢幻の如くなり」といった独特な美学を持つ日本人の考え方に、私は多くのことを学び、私自身の人生の目標や価値観にも大きな影響を与えられました。

ご清聴ありがとうございました。





『日本でのウクライナ人の生活』

モロズ イヴァンナ〔ウクライナ 出身〕

皆さん、こんにちは！ 私は、イヴァンナです。ウクライナから来ました。

ウクライナの国旗は、「青は空、黄色は小麦」を表し、自然豊かな国です。そして、IT 先進国で、お寿司が大好きな国民です。

私の生まれ育った首都キーウと、日本の京都は、1971年から54年間姉妹都市です。どちらも、歴史と伝統の街で、素晴らしい世界遺産があります。しかし、ミサイル攻撃を受けたキーウの世界遺産は、「危機遺産」に指定されてしまいました。始まりは、2022年2月24日朝5時、私は恐ろしい音で目を覚めました。飛行機のエンジンの音、銃撃の音、戦車の音、不気味なサイレンの音が続く中、家が揺れました。母は混乱とストレスのあまり、ボルシチを作り始めました。私は、ニュースを聞きながら、どうすればいいのか分からず、ただ戸惑うばかりでした。そして、この日から、いつでも防空壕に避難できるように、服を着たまま眠りました。自宅に防空壕がない人は、地下鉄の中で生活をしました。首都キーウは四方から攻撃され、占領されそうになりましたが、幸いにもそれは実現しませんでした。その後、母 と私は、親戚がいる日本に避難することにしました。しかし、父と兄を残してこなければなりませんでした。男性は国を離れることができなかったのです。日本まで道のりはとても大変でした。最初にバスでポーランドまで行き、歩いて国境を越えました。たくさんの方がいました。私たちはポーランド人が用意してくれた学校で一晩過ごしました。ビザを取得した後、飛行機で日本にきました。言葉も分からない中で、新しい生活を始めました。日本の高校1年生にあたる私は、7時間の時差があるウクライナのオンライン授業を2年間受けて卒業した後、日本語学校に2年間通い卒業しました。そして、9月に、大学に入学し、私の新しい人生が始まりました。英語を勉強し、新しい友達を作り、今はとてもやる気に満ちています。

母は、日本で生活するために、生まれて初めて、かぎ針であみぐるみを作り始めました。1本1本動画をたくさん見ながら、少しずつ上手になりました。現在、母は1週間のうち4日働きに出て、家ではあみぐるみを作り、毎晩日本語のオンライン授業を私と一緒に受けています。日本からのお金の支援はなくなりましたが、住む場所を支援していただいております。「安全」を与えてくれた日本の皆様に、心より感謝申し上げます。

最後に、10月31日は、母の誕生日でした。8000km離れている私たち家族は、今年も、また画面越しにお祝いをしました。母と私、そして、父と兄も、ケーキを食べ、お互いを祝福し、カメラ越しに母は願い事を言いました。早く家族揃って、お祝いができる日が来ることを願っています。

本日はありがとうございました。





『外国人だからこそ遭遇した面白い出来事』

賈 彤〔中国江蘇省 出身〕

皆さん、こんにちは！ご紹介にあずかりました、カトウと申します。2024年の4月に日本に来た、日本語学校の2年生です。

ええと、まず言いたいですが、僕の名前、苗字が「カ」で、名前が「トウ」です。でもこの名前のせいで、「え、本当に日本人じゃないですか？」って、何百回も聞かれたかもしれません。日本に「加藤さん」が多すぎるんですよ！（笑）

今ではもう、中国人の友達からも中国語で「加藤」って呼ばれる始末です。というわけで今日は、そんな僕が日本で体験した、外国人だからこそ面白い話をいくつか持ってきました！

まず、最初は、僕の母語のくせが原因で起きた、日本語のヤバイ言い間違いについてです。来日したての頃、授業で先生に「祖母」という単語を読むように言われました。なぜか僕は、めちゃくちゃ自信満々にこう言ったのです。

「そば！」

...シーン...。(間) 続けて「焼きそば」を読む番が来た時、僕はまたやりました。

「焼きそば！」

...焼き、祖母...。とんでもない犯罪ですよ、全国のおばあちゃん、本当にごめんなさい！で、一番面白いのが、この時「そばじゃなくて、そばだよ」って僕を直してくれた友達が、一年経った今でも、たまに「祖母」を「そば」って言っちゃうことです。もう、彼が間違えるたびに、授業中なのに爆笑しちゃいます。

中国には昔から『食えることが一番大事』って言葉があるのです。本当にご飯大好きですからね。(笑)

また、中国人にとって永遠の課題が、濁音と長音です。この前、日本人の方と話していた時、「いつ日本に来たの？」って聞かれたので、「去年です」って答えました。

そしたら相手が、すごい驚いた顔をしました。後で気づいたのですが、たぶん僕の発音、「去年(きょねん)」じゃなくて、「九年(きゅうねん)」に聞こえたのだと思います。多分、相手の心の中では、「うわ、日本に九年もいるのに、この日本語はやばすぎる...！」って思ったのでしょう。最近、中国の SNS で、ある動画がバズっていて、授業中に先生から「何が好き？」って聞かれた中国人の子

が、「牛乳が好きです」って言おうとしたらしいのですが、濁音と長音のせいで、彼の発音はこうなりました。

「きょにゅうが、好きです」

...授業中じゃなかったら、絶対に変態だと思われそうですよね！（笑）

いや、発音だけじゃない。漢字も、外国人にとっては巨大な壁なのです。去年、僕のクラスにモンゴル人の友達がいたのですが、彼は絵がめちゃくちゃ上手くて、でも漢字は全然知らなかったのです。ある時、授業で漢字を書く練習があった時、彼は教科書の漢字をまるで絵みたいに模写して、隣の席の子に聞いたのですよ。

「ねえ、これ、魚じゃない？」って、隣の子が「違うよ」って言うと、彼は今度、本物の「魚」っていう漢字をまた絵みたいにサラサラ〜っと「描いて」見せて、「ほら、そっくりじゃん！」って言いました。

後ろの席で聞いていて、爆笑しちゃいました。また、心の中で強く叫びました。「ちゃんと日本語を勉強しろよっ！」って。(笑)

ネパール人のクラスメイトも、漢字が読めなくて電車に乗るのが怖くて、半時間も自転車でバイトに行っていました。大変ですよ。まあ、僕も彼のこと笑えませんがね！僕もいまだに新宿駅では迷子になります。あれはもう漢字とかの問題じゃないです。日本の駅はダンジョンです！

さて、二つ目は、言葉と文化の違いが同時に起こした、ありえない話です。僕が通っている日本語教室での出来事です。ある日、新しい先生が自己紹介でこう言いました。「私はこの教室で一番年上なので、皆さんの『おばあさん』だと思って、気軽に話してくださいね」と、その時、ちょうど席に着いたばかりの僕は、先生の言葉の前半を聞き逃しちゃったんです。すると、隣に座ってたトルコ人の友達が、小声で僕に聞いたんです。

「ねえ、『おばあさん』って、どういう意味？」(少し自信満々に)チャンス！と思いました。僕は得意げに、そして超親切に、彼にこう説明したんです。「ああ、『おばあさん』はね、『母の母』、つまりグランドマザーのことだよ」と、その瞬間、目の前の先生の顔が「え...？」ってなって、何か言いたそう...でも言えないみたいな感じでした。先生、あの時は本当に失礼しました！後で知ったんですけど、日本では、親しみを込めてグループの中で一番年上の人が自分のことを「おばあさん」と呼ぶことがあるんですね。僕の親切な説明は、ただの失礼な学生の発言だったわけです。でも、日本人の優しさは、時々予想外の形で現れます。

僕の友達がラーメン屋でバイトをしていた時の話です。彼女は、「大判チャーシュー麺、サクサクですよー！」って言うところを1時間ずっと、「大判チャーシュー麺、臭臭(くさくさ)ですよー！」って叫んでいらしいです。でも、店長も、店員さんも、お客さんも、誰も彼女に間違いを教えなかった。最後に店に入ろうとしたおじさんが、彼女の耳元で「お嬢ちゃん、それ違うよ」って、こっそり教えてくれたそうです。優しすぎませんか？！(笑)

僕自身も、その優しさには驚かされています。僕は、結構だらしない人間でして、アパートの宅配ボックスも自転車も鍵をかけるのが面倒で、いつもそのままなのです。配達員さんは僕がかけ忘れた宅配ボックスに毎回、ご丁寧にロックをかけてくれるし、先日は、スーパーから出てきたら、僕の自転車に鍵がかかっているんですよ！もうパニックですよ。よく見たら、僕のカゴに入っていた鍵を使って、見知らぬ誰かが親切にロックしてくれてたんです。他人の自転車の安全まで心配してくれるなんて本当に驚きましたが、なんだか心が温かくなりました。

日本の方々の優しさのおかげで、僕みたいな外国人でも安心して生活できています。本当にありがとうございます。では、最後の話です。僕の日本語が下手だからこそ生まれた、ちょっといい話です。

最近、引っ越しの契約で大家さんと電話で話す機会がありました。大家さんが僕の日本語を「お上手ですね」って褒めてくれたのです。僕は「いえいえ」なんて謙遜していましたが、その数分後です。大家さんの話に分からない単語が出てきました。もう格好つけてはいられません。僕は正直にこう言いました。「すみません、ちょっと待ってください。今、その単語、調べます」その瞬間、電話の向こうで大家さんが、ふはっと笑ったのが分かりました。僕も自分の正直さに、なんだかおかしくなっちゃって、一緒に笑ってしまいました。それから数分間、僕が単語を調べては話し、大家さんが笑い、僕も笑うって本当に不思議で、楽しい契約の時間になりました。

日本での生活は、失敗や勘違いの連続です。でも、今日お話したように、そういうのって全部、後から振り返れば最高の笑い話だし、日本の人たちの優しさに触れるきっかけにもなりました。

完璧な日本語じゃなくても、大丈夫。正直な心でぶつかれば、きっと笑いと温かい心が返ってくる。日本で生活して、笑いながら学んでいます。

ご清聴ありがとうございました。





『にほんのせいかつでかんじたこと』

बीजीरीー ズバイダ カオサー [バングラデシュ 出身]

みなさん、おはようございます。

わたしの名前はबीजीरीー ズバイダ カオサーです。わたしはバングラデシュ出身です。

これから日本の生活で感じたことを話します。

わたしは9ヶ月前に日本に来ました。日本の生活はバングラデシュと全然違います。

日本はとてもどくどくでおもしろい国です。日本には東京のにぎやかな通りから、京都の静かなお寺までとても幅広い暮らしのスタイルがあります。

新しいテクノロジーを取り入れながら、古い伝統も大切にしているところが好きです。

そして、美味しい食べ物や季節の移り変わりなどもあります。特にお寿司やラーメン、てんぷらなどは最高のごちそうです。

春には桜の花が咲き、秋もとてもきれいです。紅葉もたのしむことができます。

ただ、日本での暮らしには大変なこともたくさんあります。例えば、日本語を覚えるのは大変です。わたしは、日本語の勉強をするのは、とても楽しいと思います。

また、日本の人たちはとてもやさしいです。新しく住みはじめたわたしたちを親切にいろいろ手伝ってくれます。これからもっとたくさん日本語を勉強して、仕事をしながら日本の生活をたのしみたいです。

これらが、わたしが日本の生活で感じたことです。

ありがとうございました。



※一部表記を漢字に直しております。



『日本の生活』

胡 ^コ ^{カイ} ^チ 佳一〔中国武漢市 出身〕

皆さん、こんにちは。

コと申します。今年の二月八日に日本に来ました。日本語を上手になりたいので、たくさんの日本語教室で参加しましたが、仕事や引っ越しのため、今は二つの教室だけ通っています。

今日は、日本で行った場所や、日本語教室で参加したイベントなどについてお話します。

まず、日本に住んでいる親戚と一緒に忍野八海に行きました。水が澄んでいて、富士山と一緒に見る景色はとても美しかったです。そして、記念にコインを買いました。いい思い出になりました。

春には上野公園で桜を見ました。満開の桜の下を歩くのはとても気持ちよかったです。その後、動物園にも行きました、パンダを見る列がとても長くて、残念ながら見るできませんでした。本当に人気がいっぱいと感じました。

夏には花火大会や御宿海岸にも行きました。花火大会は雰囲気がいぎやかで、夜空の花火がすごくきれいでした。御宿海岸では波の音を聞きながら散歩して、気分がリフレッシュできました。

日本語教室の活動にも参加しました。菖蒲まつりでは花を楽しみ、季節の雰囲気を感じることができました。料理大会では、みんなで料理を作って食べてとても楽しかったです。そして、屋形船では、川の上で風を感じながら、もんじゃ焼きを食べて、皆で写真も撮って、良い思い出になりました。

日本に来たばかりのころは、毎日不安で、人と話すのも緊張していました。でも、日本語教室に通ううちに、少しずつ話せるようになって、授業がどんどん楽しくなりました。

先生や皆さんの優しい言葉や笑顔に、何度も助けられました。日本に来て、本当に良かったと心から思います。これからも日本語を勉強しながら、もっと成長していきたいです。そして、日本で新しい友たちも作りたいです。

以上、今日はありがとうございました！これからもよろしくお願いします。





『中日の言語表現の違い』

張 榕清〔中国福建省 出身〕

皆さん、こんにちは。私は中国から来たチョウ ヨウセイと申します。

今日は「中日の言語表現の違い」についてお話しします。

さて——最近ちょっと太った人、手を挙げてみてください。

あっ、この方！「太ったね！」

あっ、そちらの方も！

じゃあ、もし誰かに「あなた、最近太ったね」と言われたら、皆さんはどんな気持ちになりますか？

ショック？ちょっとムツとしますよね？

でも実は、中国のある地域ではそれ悪口じゃないんです。むしろ「最近元気そうだね！」というほめ言葉なんです。

私も日本に来て、友達に同じことを言ったら——

「ええ、チョウさん、ひどい！」って言われて、本気でびっくりしました。

このように、中国語と日本語には「表現の違い」がたくさんあります。

中国語はとてもストレート。思ったことをそのまま言います。

一方、日本語はとてもやわらかい。

たとえば、食べ物があまりおいしくないとき。

中国人ははっきりと「ぺい、なにこれ、まずい！」と言います。

でも、日本人はそんなこと言いません。

代わりに——「初めての味ですね……」と言います。

また、人の性格を話すときも違います。

中国人なら、「ええ、あの人の性格が悪そう」と言ってしまいます。

でも日本人は、やっぱり優しいです。

「けっこう個性的な人ですね」と言います。

そして、もう一つ面白い違いがあります。それは、メールのあいさつです。

中国ではとてもシンプルです。たとえば——「你好，我是张榕清。」

日本語なら、「初めまして、チョウ ヨウセイと申します。」これで十分ですよ。

でも、日本のメールでは、ここからがすごいです。

チョウと申します。いつも大変お世話になっております。朝夕はすっかり肌寒くなり、秋の深まりを感じる今日此頃ですが、貴社におかれましてはますますご清栄のことと拝察申し上げます。平素より格別のご高配を賜り、心より御礼申し上げます。

日本人のメールは、まるで“言葉の前に花束を添えるような”感じ。直接的ではないけれど、読んだ人の心が少し温かくなる。

そこに、日本語の「丁寧さ」と「思いやり」があると思います。

最初のころ、私もメールをもらうと、

ちゃんと最初から最後まで丁寧に読んでいました。

でも、だんだん慣れてくると、まず「誰から来たのか」だけチェックして、その長～いあいさつの段落は……はい、スルーです。そして、すぐに本題を読みます。

たぶん、皆さんも同じですよ？

言葉の違いって、本当に面白いですよ。中国人と日本人、同じことを言っても全然違う！

でも大事なものは、「伝え方」より「伝えたい気持ち」だと思います。

ですから、もし私がまた誰かに「太ったね」と言ってしまうても、その時は、「元気そうだね！」という意味ですから信じてくださいね！

ご清聴ありがとうございました。





『東京とホーチミンの違い』

チャウ トウエン バン〔ベトナム 出身〕

みなさん、こんにちは。

私は、ベトナムのホーチミン市から来ました。日本での生活は、今年で 7 年になります。

今日は、私が日本に来て驚いた「東京とホーチミン市の違い」についてお話したいと思います。

まずは、最初に驚いたのは、交通の違いです。日本、特に東京では電車の路線がとても複雑で、最初のころはよく迷ってしまいました。乗り間違えることもあり、特急や普通などの種類も多くて、どの電車に乗ればいいのか分からなくなることがありました。

でも、電車は時間どおりに来ますし、どこへ行くにもとても便利です。ただ、出勤時間は人が多すぎて、まるで人の波に押されるように電車に乗るのが大変でした。

一方、ホーチミン市では電車が最近ようやく開通したばかりで、まだ多くの人がバイクで通勤しています。朝や夕方には、まるでバイクの波のような光景が広がり、それがホーチミンらしいエネルギーを感じる瞬間です。バイクの音や人々の声がまちの活気をつくっていて、にぎやかで少し混乱しているけれど、私はその雰囲気がとても好きです。

次に驚いたのは、住所の違いです。以前、仕事でお客様のご自宅を訪問する機会がありました。そのとき、同じ住所なのに 6 軒も建物が並んでいて、とてもびっくりしました。どの家が正しいのか分からず、最終的には部屋の前にある名札を見て確認しました。

ベトナムでは、一つの家の一つの住所があるので、このようなことはありません。日本の住所は細かくて複雑ですが、それによって配達や郵便が正確に届くのだと知り、「日本らしい丁寧さ」だと感じました。

それから、気候の違いも大きいです。東京には春・夏・秋・冬の四季があり、季節の変化をはっきり感じることができます。春は桜が咲き、町全体がピンク色に染まります。桜の下でお弁当を食べたとき、「ああ、日本に来て本当によかった」と思いました。

夏は暑くて湿気が多いですが、夜に花火大会を見たときの美しさは忘れられません。

私は秋が一番好きです。紅葉がとてもきれいで、山登りや公園の散歩が楽しくなります。

冬は寒くて雪が降ることもあります。日本に来たとき、初めて見た雪の美しさは今でも心に残っています。

一方、ホーチミン市は一年中暑く、雨季と乾季の 2 つの季節しかありません。

雨季は 5 月から 11 月までで、特に 9 月は毎日のように雨が降ります。バイクで通勤・通学するのがとても不便で、レインコートを着なければなりません。

乾季は 11 月から 4 月で、気温が少し低く、雨が少ないため過ごしやすいです。

気候はまるで沖縄のようで、いつも南国の雰囲気を感じます。

晴れた日には、多くの人が日焼けを防ぐために、まるで忍者のような格好でスカーフや長袖を着ています。

暑い中でも、ホーチミンの人たちは明るく笑いながら働いていて、その元気がとても魅力的です。

最後に、物価の違いについても感じました。

東京は世界でも物価が高い都市の一つで、家賃や交通費がとても高いです。

たとえば、東京の中心部では 1 ベッドルームの部屋が月 10 万円～20 万円ほどします。

一方、ホーチミン市では同じような部屋が月 5～8 万円程度、多くても 10 万円前後です。

交通費も違いがあります。東京では、1回の乗車でだいたい180円～330円ですが、ホーチミンの電車は45円～75円ほどで、ほかにバイクやバスを利用する人も多いです。

ただし、日本の生活には安心感と便利さがあり、それには大きな価値があると思います。夜遅く帰っても安全で、どのお店でもきれいで、サービスも丁寧です。

ホーチミンには活気と笑顔があり、日本には安心と秩序があります。どちらの国にも、それぞれの魅力があると感じます。

このように、東京とホーチミン市にはたくさんの違いがあります。でも、どちらの街にも素敵なおところがあり、それぞれの良さを学ぶことで、私は自分の世界が広がったと感じています。

ご清聴ありがとうございました。

